

第4回安曇野市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議 会議概要

1	審議会名	第4回安曇野市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議
2	日 時	平成27年10月19日 午前10時30分から11時45分まで
3	会 場	安曇野市役所3階共用会議室301
4	出席者	木村委員、田村委員、栗田委員、内田委員、松岡委員、馬場委員、石曾根委員、 宮島委員、浅川委員、伊藤委員、廣瀬委員、浅川委員
5	市側出席者	宮澤市長、小林政策部長、関政策経営課長、小林課長補佐、鈴木主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	3人 記者 1人
8	会議概要作成年月日	平成27年10月19日

協 議 事 項 等

次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 市長あいさつ
- 4 協議
 - (1) 安曇野市人口ビジョン（案）及び安曇野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）に対するパブリックコメントと市の回答について
 - (2) 安曇野市人口ビジョン（案）及び安曇野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）の最終版について
- 5 その他
- 6 閉会

会議

- 1 開会（田村副会長）
 - 2 会長あいさつ（木村会長）
 - 3 市長あいさつ（宮澤市長）
- <公務により市長退席>
- 4 協議

（事務局）始めにパブリックコメントの説明をします。9月10日から10月9日までの期間で実施し、これに対して意見を7名の方からいただきました。意見数については37件です。総合戦略に反映したものは2件ございます。まず1ページの2番、田園風景と先端技術の融合。農産物のブランド化。農業の6次産業化。農産加工品の販売促進。荒廃農地をブドウ畑、リンゴ畑への転用。リンゴを使ったカルバドス、シードルの醸造・ブランド化。これらについてご提案をいただきました。これに対して、本市の対応としては、農産物のブランド力強化、農産物加工品の開発による高付加価値化といった取り組みは、基本目標1「新たな雇用を生み出す」の施策1「次代へつなぐ農林業の取組み」の中に位置づけて進めます。荒廃農地の解消について、当初「リンゴ畑」に限定していましたが、「ブドウ畑への転用」とのご意見を踏まえて見直しをし、次のように修正いたします。総合戦略の11ページ、「りんご栽培チャレンジ支援事業」を「果樹栽培支援事業」に修正します。リンゴに限定せず果樹全体に支援していく内容です。もう1点ございます。4ページ「新たな雇用を生み出す」に新規施策を追加するものです。市の基本計画には、自然エネルギーの活用の推進の項目があります。安曇野市には活用できる再生可能エネルギーが豊富に存在するので、「再生可能エネルギーを活用した雇用機会の創出」を総合戦略に盛り込み取り組むことで、雇用の創出とエネルギー自給率の向上が期待できる、といったご意見でございます。このご意見に対して、本市に豊富に存在する再生可能エネルギーを活用した事業が展開されることで「雇用創出効果」及び「エネルギー自給率の向上」を図ることができるものと認識しております。総合戦略の17ページに新規に施策を追加いたします。施策6として「再生可能エネルギーを活用した雇用機会の創出」を追加します。この2つの提案を市の総合戦略の内容に反映します。その他ご意見につきましては原案のとおりとします。

（委員）「原案どおり」とはどのような意味でしょうか。

(事務局)「原案どおり」というのは、ご意見はお聞きしましたが、修正無しということです。加えて、総合戦略の前回と異なる部分について説明をします。まず 7 ページで総合戦略の重点的に取り組む施策です。前回の有識者会議で、安曇野ブランドの積極的な情報発信に重点的に取り組むといったご意見を頂戴しました。検討した結果、7 ページの重点的に取り組む施策に、(7)「安曇野ブランド」の積極的な情報発信に取り組みます、というものを盛り込みます。次に 11 ページ中程に、果樹栽培支援事業と赤字で記載がございます。それから、2 行下に農産物加工品開発製造及び販売促進支援事業・農政課、とあります。これは今回新たに追加したものです。加工品開発による農産物の高付加価値化につきましては 10 ページの基本的方向の部分に記載がありますが、事業として明確に記載したほうがこれから市民の皆さんに説明し、一緒に取り組んでいきやすい、という判断をして、事業名を記載したものです。次に 17 ページで、先程説明をした再生可能エネルギーですが、基本目標 1 の施策 6 として、再生可能エネルギーを活用して新たな雇用を創出すると同時に、本市のエネルギー自給率を高めることを目指します。重要業績評価指標 (KPI) は、再生可能エネルギー活用事業所を平成 31 年度において 1 以上と設定しました。

(委員) 特段問題ないと思います。後は、これを実際にどうやって実現していくかということですね。

(委員) パブリックコメントの回答を見ると、2 ページの No.7 では成長産業を定義しても数年後には不透明という状況であり、絞り込むことができない、との記載があります。全般的に話題が広がりすぎて、薄れてしまっている印象を感じました。基本的には産業をもっと絞り込むべきだと思いますが、様々な立場の人が関係するなかではやむを得ないことは分かりますが、施策の強弱と優先順位のつけ方が重要だと思います。雇用吸収力があって付加価値の高い現在の産業の定着を支援していくべきだと思います。コンパクト化については安曇野の原風景においては違和感があります。

(会長) 特定や絞込みまでは難しくとも、優先順位は書けなくもないと思います。私から一つお尋ねしたいのですが、再生可能エネルギーについて、色々考えられると思いますが、具体的に考えているものはございますか。

(事務局) 企画部局の考えではバイオマスです。これからの研究となりますが、まずは農業関係ならば稲藁、家畜の排泄物等はバイオマスとして活用できると思います。林業関係では間伐材等を考えています。それから、現在活用が進んでいる太陽光、風力等も再生可能エネルギーとして考えられます

(会長) 総合戦略は、その一つ一つにどうやって具体的に行動を起こすかが重要になりますね。あれもこれもと総花的なりすぎず、市として特徴を出せるものを絞って資源を投下していくべきだと思います。もう一つ私がお尋ねしたいのは、基本目標 2「若者女性が活躍できるまちをつくる」の移住者住宅支援で、目標が「情報物件数」となっています。実際に何件定着しましたという目標ではないです。人口ビジョンにおいては、安曇野市は意欲的な目標を設定しています。83,000 人程度のかかなり意欲的なビジョンを掲げていますが、それならばこのような移住や結婚の分野はかなり重要です。その割には、目標は情報提供が 50 件といったもので、その結果を目標にしなくてもよいのかと思います。結婚相手においても、結婚人数を目標に掲げていません。何か理由があるのでしょうか。

(事務局) 従来から婚活イベントについては取り組んでいますが、なかなか結婚というのは成果が難しい現状がございます。本当は、目標にカップル数を設けるのが一番良いのですが、人と人の気持ちの面もありますし、これまでの経過からも難しいと認識しています。したがってまずは婚活の参加者数を増やし、将来の結婚に繋げていきたいという考え方です。空き家物件数においては、具体的な事業もすべて新規です。当市も移住支援や相談について、これから本腰を入れて取り組んでいきたいと考えております。移住者について現段階では具体的な目標数値を定めるのが難しいこと、取り組む現場の考え方として、まずは空き家情報物件数を把握し、それを情報提供することで移住者獲得につなげていきたいと考えています。中間目標のような形になるわけですが、まずはこれを掲げ、今後目標値を考えていくということになります。この総合戦略においては、毎年見直しをすることになっています。見直しにおいては、目標値に対する進捗確認に合わせて KPI についても修正していくことができます。したがって、まずは現実的な目標を掲げ、取り組みの中でより効果的な目標値に修正していくものと考えます。

(会長) そのようなチャンスがあるならば、ぜひ具体的な成果としての数値を掲げてほしいと思います。担当課と十分相談していただきたいと思います。また子育て世帯 15 世帯の移住について

は、それ以上に転出者が戻ってこなければ意味が無くなってしまいます。若い人を残すために奨学金制度等を検討していると思いますが、この奨学金制度の具体的な仕組みとして、小出しでは意味がないので、思い切ってやってほしいです。地元の大学に行って、地元に残るのであれば返還しなくてもよいとか。外からの呼び込みと、今いる若い人間を残すという両面でやってもらいたいです。全体として見ると施策の基本線がバラついている印象がありますので、ぜひリードしてもらいたいと思います。

(事務局) 承知いたしました。私共の課が取りまとめる課ですので、きちんと担当課と協議しながら、実効性のある取組みとしていきたいと思います。前回この会議の中で、廃業の数について質問がありました。確認した結果を説明します。廃業数は平成 24 年度は 9 件、25 年度は 6 件、26 年度は 5 件です。新しく起業する方の支援と同時に、廃業しないよう取り組むことも必要だと思いました。

(委員) 具体的な事業において、例えば 16 ページの施策 4 において、地域資源を活用した産業モデルの支援がありますが、その中に、地域産品拡大支援事業と、多角的な販路開拓支援事業のような同じような事業があり、他にもいくつか見受けられるのですが、もう少しまとめることはできないのですか。

(事務局) ご指摘の点におかれましては、表現が似ていて分かりにくいといった面があるかと思えます。商工労政の担当事業につきましては、一つ一つが独立して異なる流れで動いている事業が多くあります。また表現も似ているわけですが、例えばご指摘の販路拡大事業は、すでにある販路を広げていくという事業、それに対し販路開拓は、今は無い新たな販路を新規開拓していくものであり、使う国の施策メニューも異なっているため、このような表記となっております。これらにつきましては、今回はこのような形で書かせていただき、また検証時において内容を説明し、その際にまとめた方がよいということであれば検討したいと考えております。

(委員) 19 ページの移住促進パンフレットの作成とか、移住定住促進総合サイトの開設とか、支援協議会の設立とか、いろいろバラマキのような事業になっているような気がしますが。

(会長) 確かに、これとこれとは何が違うのかと思われるものは多々ありますが、金の取り方が違うからということがあるのかもしれないですね。その辺は、1 年後にこういった疑問に答えられるようにしてもらいたいと思います。結局、1 年後にどのようになっているかを、皆さんそれぞれの立場で見えていく必要があると思えますね。

(委員) 数字についてお尋ねします。様々な数字が並んでおりますが、目標数値を出す根拠はあるのでしょうか。

(事務局) 目標値につきましては、各担当の部署においてこれまでの経過を踏まえ、5 年後の目標として達成していきたいというものを設定しています。目標数値の共通的な算出方法はありません。各担当課の判断で数値を出しております。

(委員) 人口が減るということを企業として考えた場合、赤字決算を続けていくようなものだと思います。目標の人口が今の人口よりも少ないというのは、あり得ないと思います。現状維持の目標を立て、最終目標に据えて、そこから逆算して各目標をたてるべきだと思います。

(事務局) 現在の人口を維持することを前提に、各施策に取り組むべきではないかということですか。

(委員) はい、それがたとえ無理な目標であっても、それに向けて皆で頑張っていくことがあるべき姿かなと思えました。

(事務局) 市全体の人口の推移としては、おっしゃるように維持を目指すという考え方もあるのですが、現実としてやはり維持は難しいと思います。現状維持を基本に据えることは現実的には難しいと思います。

(会長) 今回の目標人口については、2040 年で 83,000 人となっています。5 年計画ですので、次の 2020 年だと 9 万人少しですかね、これは全国的に見ても高く、意欲的な目標です。今回の目標の設定についてはこの線によろしいと思えますね。

(委員) わかりました。

(会長) 事務局にお願いしたいのは、個々の目標値を達成したら 5 年後に 9 万人以上に市の人口が維持できるということをシミュレーションしてほしいところです。各施策が全部目標通りに達成できたら人口が目標どおり維持できる、そんな根拠が欲しいところです。

(副会長) 目標の設定においてとりあえずの設定をしようという部門と、意欲的に高いところへトライしようという部門があるので、その辺の調整は事務局で必要だと思います。部門ごとの取

り組みが核になってくると思います。PDCA を用いて評価する場合に、より低くてクリアすること自体が目標になってはまずいと思います。

(事務局) はい、わかりました。

(委員) 安曇野は大自然に抱かれて、農業、製造業、安曇野スタイルといった工芸家達が集まったりと、物を生みだしたり命を育む場所として、とても魅力的だと思います。それを外部や次世代に向かって魅力を発信し、基軸としていけば、安曇野をもっと活力あるところにしていけるとと思います。子育て支援も、保育料の第3子無料化など有難く思っております。これからも重視していただくと共に、子育て中のお父さんお母さんの声を拾ってもらう機会を増やしていただきたいと思います。出産後の復職、再就職が課題として記載されています。具体化する施策として、塩尻市では託児を無料利用し、パソコン研修講座などを受講して社会復帰を支援する制度があるそうです。そういった制度が安曇野市にあればありがたいと思います。

(会長) これから進めていく上で、直近の見直しの機会にできるだけ入れてくれということですね。

(委員) 再生エネルギーはクリーンイメージにも繋がってくると思うので、安曇野の地域資源を生かしていけば良いと感じました。果樹の関係ではブドウも支援範囲に入ってくるということで、明科地区の方ではそういうところも増えていますので、安曇野の特色を生かしたものになっていけば良いと思いました。

(委員) 再生エネルギーの話では、信州大学で再生エネルギーをどう利用していくか共同研究があります。特に注目されているのが、地下水の水温が常に一定しているということで、その熱を利用して農業にどう生かしていくかということで、結びつきも強く、費用対効果の面もクリアしやすいのではないかと思います。雇用機会の創出ということもありますが、再生可能エネルギーと農業との結びつきというのは、とても意味があることだと思います。

(事務局) ありがとうございます。再生可能エネルギーの事業について相談させてもらうかもしれませんが、その時はまたよろしく願います。

(会長) 再生可能エネルギーについて担当課は決まっていますか。

(事務局) 実際の取組みについて、まだ決まっておられませんので、まずは私どもが研究という形で担当しまして、その結果事業を展開していく中で、各担当課が動くこととなります。

(委員) 総合戦略は企業で例えるならば、中期、長期戦略ということになると思います。一番重要なのは、こういった戦略をどのように発信していくのか、どこへ発信するのかだと思います。せっかく壮大なプロジェクトを掲げましたので、毎年見直しをする際には、受動的な見直しではなく、能動的にやっていかないとはいけません。特に外から招致するのであれば、どこに情報発信するのかは、一番のキーになると思います。こういった大きな計画が組織体に埋もれることのないように活動してもらいたいと思います。

(会長) 具体的にどうするかが大事ということですね。この期間は5年ですよ。例えば再生可能エネルギーの話にしても、5年で成果が出てくるかどうかは疑問がありますね。目標として掲げるといっても、少し中長期的に取り組まなければいけない問題は切り分けていかないとはいけません。見直す際に、数値目標にどれだけ近づいて、それが最終的に人口維持にどう影響したかの検証が必要だと思います。人口への効果検証をぜひやってほしいし、強くお願いするところですよ。

(委員) 総合戦略の重点的施策で、(1)として農産物の販路を拡大するため、「農産物の海外輸出」に取り組みます、と謳っていますが、輸出農産品目標は1品目です。一番に掲げた重点課題にしては目標が1品目なので気になりました。それからブランド強化としては、他にも安曇野には米やそば等の雑穀類もありますので、それも一言入れてほしいということもあります。

(事務局) ご指摘ありがとうございます。農産物海外輸出が重点取組施策の一番目にあるということですが、この順番については、基本目標の順番ごとに並べているものです。農産物の輸出につきましても、非常に重要なことと捉えております。これから人口が減少して市場が縮小する中で、農業で生計を立てていく人達が、きちんと栽培、販売をしていけるための、方法の一つとして、海外にも目を向ける必要があると考えます。もちろん1品目ではなく、他の品目も取り組んでいかなければいけません。まずは特産品であるリンゴを使って輸出の道筋やノウハウを蓄積し、それが将来、他の産地に対抗できる強い農業を作る基本になると考えます。次に、米、麦、大豆等の園芸以外の作物についてですが、この総合戦略は市の計画のすべてではなく、特に人口減少抑制や地域の活性化を達成するために必要な施策として取り組むものです。従来取り組んできた米麦大豆等の生産振興につきましても、当然今後も取り組んでいくこととなりますので、農協の皆さんにも引き続きご支援をいただくことになると

思います。11 ページの農林業の振興のなかで、市の振興農作物産地化事業という形で掲載していますが、ここに載っていないからといって、市がそれを重点的にやっていかないというものではありませんので、従来通り続けていきたいと思っております。

(会長) 私も共感する部分としては、わざわざパブリックコメントを採用し、リンゴのみにこだわらずと修正をしているのに、輸出の目標については1品目というのはおかしいですね。なぜ2品目と書けないのかということは強く感じます。ぜひ、取り組んでいただきたいと思います。

(委員) 拝読しまして、優先順位が分かりません。必要なことは、まず安曇野市をどうしていきたいかの理念があり、長期計画があり、そして5年、3年という期間ごとに分けることですね。折角すばらしい計画なので、そういった観点から、長期的にやらなければいけないこと、短期的にやらなければいけないことの仕訳をしてほしいと思います。次に、安心して出産し子育てができるまちづくりについてですが、防犯という観点も付けてほしいと感じました。

(会長) ここに出ているものが、すべて5年でということだけでなく、もう少し長い期間で見ないと成果が出ないものもあると思います。現実にはその切り分けをきちんと考える必要があると思います。防犯については、文章にはありますが、具体的な目標としては入っていないと思います。なかなか目標は立てにくいと思いますが、若い人の消防団への加入人数など、ぜひ担当課で考えていただければと思います。他にはいかがですか。

<意見無>

(会長) だいたい出尽くしましたね。それでは、今日色々ご意見出ましたが、これはこれで最終案として出していただき、できるだけ早い期間に、今日の意見を反映させていただきたいと思えます。基本的に1年毎に見直しですね。ぜひ直近の見直し機会にお願いします。

5 その他 (11:40)

(事務局) 今後のスケジュールですが、明日の市の戦略本部会議において人口ビジョンと総合戦略を決定する予定です。その後に議会の皆様、市民の皆様に公表をします。併せて国や県に提出をしていきます。有識者会議はひと段落となります。本年度中に戦略の改訂の必要が生じた場合には、改めてお願いするということになります。効果については毎年検証することになっております。検証もこの有識者会議の皆様にお願いますので、皆様の任期为平成29年3月末までとさせていただきます。次の検証については、開催は28年になってからということとなります。それぞれの機関を代表しておいでいただいている委員の皆様におかれましては、28年度であれば28年度の役職の方をお願いすることになります。最後にお礼を申し上げます。皆様のご協力を頂きまして人口ビジョン、総合戦略を策定することができました。本当にお忙しい中、御都合をつけて出席をいただきお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(会長) それでは当会議これで終了となります。ありがとうございました。

6 閉会 (副会長)

以上